第1学年　体育科　学習指導案

日　時　　平成18年11月8日（水）
場　所　　第1体育館
学　級　　1年7組体育科男子　計30名
指導者　　教　諭　　大　谷　佳代子

1 単元名

スポーツIII（剣道）

2 単元について

(1)　生徒観

体育科の生徒であるので運動技能に優れ、運動・スポーツに興味・関心が高い。また、仲間意識が強く、授業では互いに教え合ったり、活気のある雰囲気で積極的に取り組もうとする。

(2)　教材観

ほとんどの生徒が中学校時代に剣道の授業を受けたことがないので竹刀や防具を持つことも初めてであり、新鮮な気持ちを持って剣道に取り組める状況である。我が国固有の伝統的な武道である剣道の特性を正しく理解させ、特にも運動の考え方や技術が相手との関係から成り立つものであることから、安全に留意し、相手を尊重するとともに、規則の遵守、公正、協力、克己などの社会的に望ましい態度を身に付けさせたい。

(3)　指導観

武道は運動能力の高い体育科の生徒にとっても、その運動経験がほとんどないために「苦手」というイメージを持っている生徒が多い。また、剣道は特にも竹刀による打突があるために「痛い」というイメージが先に立ち、規則や礼法を守ったり、互いに相手を尊重し合って技を高めていくなど、剣道の本来の学習すべき内容が理解されないまま授業を受けている生徒が少なくない。よって、剣道における確かな学力を基本動作及び技の習得ととらえ、特にも1学年では剣道の伝統的な考え方や特性、及び用具や技の名称を理解させ、段階的に技の系統性や構造など知識・理解をより深めさせるとともに、それが練習や試合で活かすことができるようにしたい。

また、体育科の生徒として高い運動能力とその専門性を活かすために、3年間の指導計画を見据えて多くの生徒に初段資格取得ができるようにしたいと考えている。

ア　1学年では剣道の特性を理解して、個人的技能である構えと体さばき、打突の仕方と受け方などの基本動作や対人的技能であるしかけ技・応じ技の習得ができるようになる。

イ　2学年では基本動作や相手の攻防に応じたしかけ技や応じ技を身に付け、自分の得意な技で対人的技能による試合ができるようになる。

ウ　3学年では得意技や対人的技能の一層の向上を図り、審判や試合の運営ができるようになるとともに、剣道の特性をより深く理解し初段資格取得のために「日本剣道形」の練習も取り扱う。

3 単元目標及び評価規準

(1)　単元目標

ア　武道としての剣道の特性を理解し、伝統的な行動の仕方、規則や礼法を守り、互いに相手を尊重し合いながら公正・安全な態度で練習や試合ができるようにする。

イ　自己の技能の程度や課題を理解し、基本動作及び対人的技能の向上を図り、それを活かして練習や試合ができるようにする。

ウ　自己の能力に応じた技を習得するために課題を明らかにし、課題解決のための練習や試合の工夫ができるようにする。

エ　体育科としての専門性を高めるために段位取得ができるようにする。

(2)　評価規準

	関心･意欲･態度	思考･判断	運動の技能	知識･理解
十分満足できる	ア　相手の動きや技に応じて基本動作や対人的技能（しかけ技や応じ技）を正しく行おうとする。 イ　用具や服装、練習場などの安全を確かめたり、審判の判定や指示を受け入れ公正な態度で取り組んでいる。 ウ　互いに協力して技を習得する喜びや相手を尊重しながら競い合う武道の楽しさを深く味わおうとする。	ア　課題の達成状況をとらえ、練習の仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。 イ　攻防の間中、常に相手の動きや体勢などに応じて有効な技をかける機会を見つけようとしている。 ウ　新しい得意技を身に付けるための課題を設定して課題解決に適した練習の仕方を選択している。	ア　相手の動きや技に応じて、基本動作では、Ⅰ．正しい構えと体さばきができる。及びⅡ．正しい位置で打突と受け方ができる。 イ　相手の動きや技に応じて、対人的技能では、しかけ技や応じ技の一つ一つの技が正しく理解され行われている。 ウ　防具の正しい装着や礼法を教え合うことができ、学習した技を習得し、仲間に教えあうことができる。	ア　剣道の伝統的な考え方、特性、用具や技の名称などを正しく言ったり、書いたりできる。 イ　安全な練習の仕方や学習の進め方について、十分理解し、具体的な例を挙げ示したり教え合ったりすことができる。 ウ　剣道の礼法、練習時の禁止事項やルールなどについて正しく理解し、練習の仕方を具体的に説明することができる。
おおむね満足できる	ア　基本動作や対人的技能（しかけ技や応じ技）を互いに協力し合い、正しく身につけようとしている。 イ　用具や服装、練習場などの安全を確かめたり、審判の判定や指示に従うとともに禁止事項を守り自他の安全に留意しようとする。 ウ　技を習得する喜びや相手を尊重しながら競い合う武道の楽しさを味わおうとする。	ア　課題の達成状況をとらえ、課題を見つけようとしている。 イ　相手の動きや体勢などに応じて有効な技をかける機会などを見つけようとしている。 ウ　自分に合った技を選び得意技として身に付けるための課題を設定して課題解決に適した練習の仕方を選択している。	ア　基本動作では、Ⅰ．正しい構えと体さばきができる。及びⅡ．正しい位置で打突や受け方ができる。 イ　対人的技能では、しかけ技や応じ技の一つ一つの技が正しく理解され行われている。 ウ　防具の正しい装着や礼法ができ、学習した技を使って練習ができる。	ア　剣道の伝統的な考え方、特性、用具や技の名称などを言ったり、書いたりできる。 イ　安全な練習の仕方や学習の進め方を理解し具体例を挙げている。 ウ　礼法、禁止事項やルールについて理解し説明することができる。
努力を要する	ア　教師や仲間の指導により基本動作や対人的技能（しかけ技や応じ技）を身につけようとしている。 イ　教師や仲間の指導で礼法や禁止事項を守り、練習や試合に取り組もうとする。 ウ　技を習得する喜びや相手を尊重しながら競い合う武道の楽しさを味わおうとするために教師や仲間の助言を必要とする。	ア　教師や仲間の指導で自分の課題を見つけることができる。 イ　教師や仲間の指導で有効な技を出すことができる。 ウ　教師や仲間の指導で自分に合った技を選び得意技として身に付けようとする。	ア　教師や仲間の指導、協力のもと、基本動作では、Ⅰ．正しい構えと体さばきができる。Ⅱ．正しい位置で打突と受けを行おうとする。 イ　教師や仲間の指導、協力のもと、対人的技能では、しかけ技や応じ技の一つ一つの技を理解しようとする。 ウ　教師や仲間の指導、協力のもと、防具の正しい装着や礼法ができ、学習した技を使って練習や試合、及び審判をしようとする。	ア　剣道の伝統的な考え方、特性、用具や技の名称などがについて部分的には言ったり、書いたりすることができる。 イ　安全な練習の仕方や学習の進め方について部分的には言ったり書いたりすることができる。 ウ　礼法、禁止事項やルールについて部分的には言ったり書いたりすることができる。

4 単元の指導及び評価内容

「スポーツⅢ（剣道）」 体育科 第1学年 男子 17時間配当

時間	学習のねらい・学習活動	指導の留意点	「努力を要する」状況にある生徒と指導の手立て	学習活動における具体の評価規準（「おおむね満足できる」状況）			
				関心・意欲・態度	思考・判断	技　能	知識・理解
学習Ⅰ 2時間	○ オリエンテーション ・ 単元の目標を知る。 ・ 学習の仕方を理解する。 ・ 剣道の特性を知る。 特にも剣道特有の名称を理解させる。 ○ 体つくり運動 ・ 剣道の動きにあった体力を高める運動を行う。	・ 学習の流れや授業レポート・評価方法を説明する。 ・ 剣道の特性を説明し、相手を尊重して練習するなどの礼法や竹刀の取扱いや禁止事項について説明し、安全面の徹底を図る。 ・ 関節の柔軟性を高め、ケガの防止に努める。	・ 遅刻をする。竹刀を準備しない。（関・意・態） → 遅刻及び準備しない理由を明らかにし、授業への取組方を理解させる。 ・ 特性を理解できない。（知・理） → 授業レポートなどでチェックして個別指導を加える。 ・ 行動に落ち着きがない。（思・判） → 安全面について考えさせる。	○ 剣道の伝統的な考え方や特性を理解しようとしている。（観察）			○ 剣道の伝統的な考え方や礼法、特性がわかる。（授業レポート） ○ 竹刀や防具の名称がわかる。（観察・授業レポート） ○ ケガ防止の方法を言ったり、書き出したりしている。（観察・授業レポート）
学習Ⅱ 5時間	ねらい1 基本動作（構え、体さばき）及び打突の仕方と受け方を身に付け、剣道固有の動きを理解し、剣道の特性に触れる。 ○ 構えと体さばきの習得 ○ 竹刀の持ち方の確認と素振りの仕方を学習する。 ・ 正面素振り、左右素振り、跳躍素振り ○ 防具の装着を学習する。 ○ 打突の仕方と受け方 ・ 正面、左右面、胴、小手、突き	・ 気剣体を説明する。 ・ 構えや体さばきなどを互いに評価させ習得させる。 ・ 素振り練習で起こりうるケガを予測させケガ防止に努める。 ・ 防具の装着では剣道部の生徒にも協力してもらう。 ・ 正面、左右面、胴、小手、突きを説明する。	・ 練習に参加しない。（関・意・態）、（知・理） → 技が理解できていないの場合は個別指導。用語が理解できていない場合は授業レポートの活用。 ・ 防具の装着ができない。 → 仲間と協力して教え合う雰囲気をつくる。	○ 練習場の安全を確かめ、自分の能力に応じて練習などに取り組もうとする。（観察） ○ 仲間と協力して基本動作を評価し合おうとしている。（観察）	○ 練習から自分の課題を見つけている。（観察・授業レポート）	○ 正しい構えと体さばきが素早くスムーズにできる。（観察・スキルテスト①） ○ 素振りの動きが正確かつ素早くできる。（観察） ○ 正しい位置への打突ができる。（観察） ○ 相手の打突を正しく受け、その後に体さばきなどの動きがスムーズにできる。	○ 技、及び竹刀や防具などの名称を言ったり、書き出したりしている。（観察・授業レポート） ○ 打突と受け方について具体例を示している。（観察・授業レポート）
学習Ⅱ 8時間	ねらい2 基本動作の技能の向上を図り、対人的技能を習得する。 ○ 対人的技能の習得（しかけ技） ・ 二、三段の技の習得 （小手ー面、面ー面、小手ー胴、小手ー面ー胴） ・ 払い技の習得。（払い面、払い胴、払い小手） ・ 出ばな技の習得（出ばな面、出ばな小手） ・ 引き技の習得（引き面、引き胴、引き小手） ○ 対人的技能の習得（応じ技） ・ 抜き技の習得（面抜き胴、小手抜き面） ・ すり上げ技の習得（面すり上げ面、小手すり上げ面） ・ 返し技の習得（面返し胴、面返し面） ・ 打ち落とし技の習得（胴打ち落とし面）	・ 基本動作の徹底を図り、安全に留意させる。 ・ 技の名称と構造を理解させる。 ・ 相手を思いやる気持ちや礼儀作法については、武道の特性を考えさせ、徹底させる。 ・ 技を掛け合うことで互いが高め合うことを理解させて練習やかかり稽古を行う。 ・ 気剣体一致などの剣道の特性を理解させる。 ・ 相手の動きに対応した動きを理解させる。	・ 基本動作が身に付いていないために思うような技が出ない。（思・判） → 基本動作を復習させ、個別指導や技能の上達した生徒と組ませて理解させる。 ・ 稽古をやろうとしない。（関・意・態） → 武道の特性を再認識させる。楽しく試合ができるような教師からの声かけや雰囲気つくりに努める。	○ 相手を尊重し、仲間と協力して練習やかかり稽古を進んで取り組もうとしている。（観察・授業レポート） ○ 指示に従い、礼儀作法を重視しようとする。（観察・授業レポート） ○ 技を習得した喜びを得ることができる。（観察・授業レポート）	○ 自分に合った技を選び、それを身に付けるための課題を設定し練習方法を選択している。（観察） ○ 相手の動きや体勢に応じて有効な技をかけている。（観察・授業レポート）	○ 練習した技を正確に打突したり受けたりすることができる。（観察・授業レポート） ○ 相手の動きや技に対して、技をしかける、応じるなどをすることができる。（観察・授業レポート） ○ 気剣体一致の技かけることができる。（観察）	○ 技の構造や技の名称について言ったり、書き出したりしている。（観察・授業レポート） ○ 礼儀作法、自他の安全を確保するための方法を知っている。（観察・授業レポート）
まとめ 3時間	○ かかり稽古などによる対人練習で相手の動きに応じて得意な技ができるようにする。 ・ 礼法、禁止事項を守るなどの徹底を図る。 ○ 学習のまとめ ・ 剣道の特性の再確認と技のまとめを行う。	・ 学習した技や剣道の特性を復習し理解できたかどうかを自己評価させる。 ・ 仲間のよい点や素晴らしい点を評価させる ・ 禁止事項を理解し、自他の安全に留意させ練習させる。	・ 自己・他者評価できない。（思・判） → これまでの試合の試合記録の提示をして、説明をする。 ・ 禁止事項が理解できない。 → 自他の安全を理解させる。	○ これまでの練習から自己・他者評価しようとする。（観察・授業レポート） ○ 禁止事項を守り竹刀や用具を常に点検するなど、自他の安全に留意しようとする。	○ 相手の動きや体勢に応じて有効な技や技をかける機会を選択している。（観察）	○ 正しい基本動作・対人的技能ができる。（観察・スキルテスト） ○ 得意技をかけたり相手の動きや技に応じて技をかけたりして攻防できる。	○ 自分及び仲間の得意技の名称や技の構造がわかる。（観察・授業レポート）

5　本時の学習（4／17時間目）

(1)　目　標

ア　基本動作である構えと体さばきの定着を図る。

イ　正しい胴の打ち方と二・三段の技の導入として面－胴の打ち方を習得する。

ウ　相手を尊重し、互いに協力して練習を行い、練習から自己の課題を明らかにする。

エ　竹刀や防具、練習場の安全を確かめ、健康・安全に留意して練習ができるようにする。

(2)　展　開

過程	時間	学習活動	指導のねらい	形態	教師の支援及び評価
導入	10分	○ 集合・挨拶・出欠確認 ○ 本時の授業内容の確認 本時の学習の目標と学習内容を確認し学習の見通しを持つ。 ○ 準備運動 剣道部員の号令に合わせて声を出して行う。 ○ 竹刀で受けての面打ち	・ 防具（胴、胴垂れ）の装着、竹刀の点検を行わせる。 ・ しかけ技の体系を理解させる。 ・ 素振り・構え・体さばきを復習して定着を図る。 ・ 受け方を正しく行わせる。	全体	・ 健康観察を行い見学者に指示をする。 ・ 起こりうるケガを予想させ傷害防止を意識させる。 ○ 本時の授業に対する目的意識の高さを見る。（関・意・態） ・ ケガ防止のため巡回指導をする。 ・ 前時の復習で正しい面打ちができるか。
展開	30分	○ 胴打ち ア 一人でその場で練習 イ ペアを組んでその場で練習 ウ ペアを組み、起こり→打ち→抜けの動きを入れて練習 ○ 面－胴の二段の技 ア 一人でその場で練習 イ ペアを組んで練習	○ 基本の動き①（師範） その場で打ち方・受け方を収得する。 ○ 基本の動き②（師範） 打ち→抜けなどの動き方を収得する。 ・ 最初はゆっくりと正確に動き方を覚えさせる。 ・ 練習相手を尊重して真剣に行わせる。 ・ 練習を交互に行い、仲間との交流を図り、相互に教え合いながら行わせる。 ・ かけ声を出させて行わせる	全体	○ 動き方や表情で説明を理解しているか確認する。（知・理） ○ 練習から自分の課題を見つけている。（思・判） ○ 仲間と協力して技の評価を行い、課題解決に向けて取り組もうとしている。（関・意・態） ○ 正しい位置への打突ができる。（技）
まとめ	10分	○ 面－胴の技を発表させる。 ○ 整理運動 ○ 授業レポートへの記入 ○ 次時の予告、挨拶、礼	・ 陥りやすい課題を明らかにして次時につなげる。 ・ ケガの有無の確認を行う。 ・ 本時の学習で気づいた点や理解した点を記入し、次時への課題意識を持たせる。	全体	○ 発表した生徒の課題を考えさせる。（思・判） ○ 自己評価及び学習の定着を確認する。（授業レポート）